



10月

発行責任者
校長 初村 一郎

【校長室より】

『創立120周年に寄せて』

10月23日(金)14時～、創立120周年記念式典を挙行いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来場者を生徒、職員、および島内在住の同窓会役員、PTA役員、教育関係者等に限って、式典のみを開催する運びとなりましたが、五島家35代当主 五島典昭様、五島市長 野口市太郎様、長崎県議会議員 山田博司様をはじめ、多数の御来賓の皆様のご臨席を賜り、滞りなく挙行できましたことは、私どもにとりまして、この上ない喜びであり、心からお礼申し上げます。

式典での生徒たちの凛々しい姿を見ていたら、何とか式典だけでも、開催までこぎ着けて良かったなと感無量で時間が過ぎていったように思います。以下、式典でお話した式辞の内容を転載することで、島外在住の五高ゆかりの皆様、保護者の皆様、地域の関係の皆様への御報告とさせていただきますと思います。

『式辞から』

五島高校が、120年の伝統と実績を誇る県内屈指の名門校として高い評価を得ておりますのは、歴代校長先生をはじめとする旧職員の皆様に対する熱い情熱と、長崎県並びに長崎県教育委員会、五島市、同窓会、保護者の皆様、さらには地域の皆様のご理解・御支援によるものであり、改めて感謝とお礼を申し上げます。

顧みますと、本校の歴史は、明治33年、当時の五島家当主、五島盛光公が「万国が交流を深め、発展していくとするとともに、学問をなさなければ、文明の民とはなりえない」との思いを持って、自ら旧福江城を校舎敷地として、県へ寄贈され、旧制五島中学校が設立されたことに始まります。そして、明治44年4月五島高等女学校が福江実業女学校として開校、昭和23年11月、学制改革により五島中学校と五島高等女学校が統合され、五島高等学校として今日に至ったものであります。現在、卒業生は、3万人を超え、五島市をはじめ、全国各地で活躍しています。

現在の五島高校は、創立100周年を機に、石田城本丸跡に校舎・体育館が落成し、その後、周辺の整備も行なわれ、全国でも他に類を見ない充実した施設となっています。この恵まれた環境のもと、志にあふれ素直で真っ直ぐな生徒たちと情にあふれ親身になって支える教職員が集い、校訓である「向学」「融和」「進取」の精神に則り、学習と部活動の両立と地域への貢献を目指し、様々な教育活動を展開しております。

近年の五島高校の活躍はめざましく、進学面、部活動面では離島のハンデを乗り越え、本土部の高校に勝るとも劣らぬ、群を抜いての実績を挙げていることは、衆目の一致するところであります。さらに、体育祭・文化祭・戴帽式などの学校行事において、ひた向きに取り組む生徒たちの姿は、多くの人に感動を与えるものとなっています。15の春に、本土へ渡らせることなく、「五島の子どもは五島で育てる」という環境が定着しているものと確信します。

離島留学制度で導入されたスポーツコースは、今年で18年目となり充実期を迎えています。より専門的なスポーツ理論や実習などの特色ある教育内容が広く周知され、意欲あふれる生徒が多数入学するようになりました。陸上・柔道・剣道の上位大会での活躍はもとより、ここ数年は、学んだことをさらに生かそうと、大学などへの進学者が増え、意識の高い集団に進化しています。

県内公立高校唯一の衛生看護科は、校内での専門的な学習と五島中央病院での実習を通して、看護師としての心構えや技能を身につけ、卒業時に受験する准看護師資格試験では、ほぼ毎年、全員が合格するという快挙を成し遂げています。

平成28年度からは、総合的な探究の時間に「パラモンプラン」と銘打って「地域探究型課題研究」に学校をあげて取り組んでいます。平成29・30年度に文部科学省の「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」の指定を受けたこともあり、身近な地域の課題から将来を考えるキャリア教育と主権者教育を実践しているところです。官民学が連携した取組により五島市の課題を共有し、解決策を提言したり、五島の魅力発信やイベントの企画など、五島市の活性化について当事者意識を持って探究することで、地元のことを思い、地元のために何かできることはないかと考えることのできる生徒を、関係の皆様のご協力を得ながら育てています。

また、こうした取組みが県内外から高い評価をいただき、平成30年度にはキャリア教育優良学校として、

文部科学大臣表彰、全国環境活動発表大会では環境大臣賞を、令和元年度には県民表彰および県教育委員会表彰を受賞することとなりました。

今年は5年目となり、生徒・職員ともに地域に溶け込む意識が、より一層定着してきているように思います。生徒諸君には、五島の担い手として自分たちが果たす役割の大きさを改めて自覚し、使命感を持って日々精進してほしいと願います。

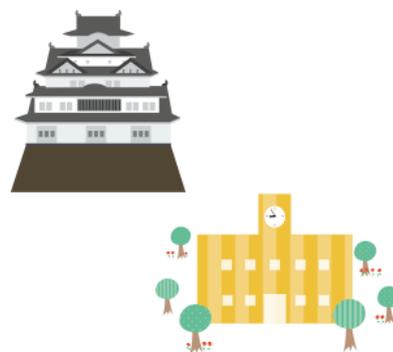
最後になりましたが、本校の創立120周年の記念事業や記念行事を推進するにあたり、本校同窓会の皆様が一体となった実行委員会を組織していただき、物心両面から様々な事業を支えていただきました。生徒・職員一同は、これまでの様々な活動を通して、本校の歴史や伝統、先輩諸氏の限りない母校愛、今なお本校に寄せる熱い思いと強い期待を身にしみ感じております。本当にありがとうございました。

120周年のスローガン「立志 ～大いなる飛翔 故郷（こきょう）の未来（ゆめ）を乗せて～」は、よりよい故郷の未来を築くため、主体的に活動し社会に貢献しようとする精神を高校生活で育み、志を持って世界に飛び出す姿、まさに「パラモンプラン」をイメージしたものとと言えます。

今年は新型コロナウイルスの影響で、学校の教育活動はもとより、世界全体がこれまでに経験したことのない事態となっています。今こそ、こうした感染症をはじめ、地球温暖化やエネルギー問題など、答えのない地球規模の課題に正面から向き合い対応していく底力が試されています。五高生が「パラモンプラン」で培った人間力を武器に、ふるさと五島に目を向け、そして、日本、世界に目を向け、大きく羽ばたいていくことを期待して、創立120周年記念式典の御報告とさせていただきます。

長崎県立五島高等学校創立120周年記念式典

<スローガン・ロゴ>



令和2年10月23日（金）14時から本校体育館メインアリーナにて、長崎県立五島高等学校創立120周年記念式典が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来場者を本校在校生、職員、および島内在住の同窓会役員、PTA役員、教育関係者等に限り式典のみの開催とすることになりました。五島家当主の五島典昭様、五島市長の野口市太郎様、長崎県議会議員の山田博司様にご臨席を賜り、素晴らしい式典となりました。在校生全員による合唱も式典に華を添えました。

今後は、式典の様子を収録した創立120周年記念誌を発行することになっています。式典後の記念講演会については中止となりましたが、次年度以降に何らかの形で東京石城会会長の高橋徹様に講演していただくことになっております。また、記念タオルの販売を多方面で継続的に行い、今後の周年事業に向けて資金の積立を行っていきます。

これまでPTAや同窓会の皆様、地域の方々の御協力と御支援をいただき、記念事業や記念式典が無事終了したことに深く感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い致します。



戴帽式

令和2年10月13日（火）メモリアルホールにて、第47回戴帽式を実施しました。

本年度は、新型コロナウイルス感染予防のため例年より出席者を制限させていただきましたが、来賓及び家族に見守られながら、ナイチンゲールの「命の灯」を引き継ぎ、翌日からの病院実習に向け決意を新たにしました。

- － 私達は、医療の現場に立つ者、患者様の命を預かる者としての自覚と責任を持ち、命と真摯に向き合う務めを全うします。
- － 私達は、柔軟な心と強い信念を持ち、常に学び続ける姿勢で、愛と誠意に溢れる看護を追求します。
- － 私達は、困難なことがあっても、向上心を持ち、仲間と共に乗り越え、目標とする誠実で笑顔の絶えない看護師を目指して、全員で成長していきます。



この誓いを胸に、これから一年間の実習を通して大きく成長していきたいと思えます。

式にご参列いただきました来賓並びに保護者の皆様には心よりお礼申し上げます。

読書感想文コンクール

夏休みの課題として1, 2年生全員が執筆した読書感想文の中から優秀な作品5点を選び、校内読書感想文コンクールを実施しました。各クラスの図書委員が運営を行いました。よく書けている感想文に触れることで、文章の書き方を学んだり、実際にその作品を読もうと思う人がいたと聞きます。現在、読書週間中です。みなさんも心を動かされる作品に出会うかもしれません。是非、図書館へ足を運んで下さい。お待ちしております。



賞	タイトル	氏名	本の題名・著者
最優秀賞	正義に必要なもの	1年4組 的野心咲	『でっちあげ 福岡殺人教師の真相』 福田ますみ著
優秀賞	「線」と向き合う	2年1組 佐々野華帆	『線は、僕を描く』 砥上 裕将 著
優良賞	後悔そして成長	1年4組 臼井花穂	『君たちはどう生きるか』 吉野 源三郎 著
	「迷う」ことの大切さ	2年4組 佐々野怜香	『羊と鋼の森』 宮下奈都 著
	「生きる」ということ	2年4組 貞方侑希	『神様のカルテ』 夏川草介 著

センター試験100日前集会 いざ勝負の時期へ

10月8日（木）に3学年PTAおよび大学入学共通テスト100日前集会が行われました。平日にもかかわらず数多くの保護者の方々が同席して下さいました。大変感謝しております。保護者の方の代表挨拶では、日頃から生徒達を見守っている家族としての愛情が感じられ、会場全体が感動に包まれました。生徒代表として、1組の古井太郎君、4組の丸田悠愛さんが力強く決意表明を述べてくれました。これからの100日間をどう捉えるか、できることは多くあります。計画を立てながら、生徒・保護者・教員が三位一体となって、残された受験勉強の日々を頑張っていきましょう。

